



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2012

3月31日号

130  
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

## 東日本大震災 1年



副会長 遊 佐 烈

昨年3月11日14時46分に三陸沖を震源とする国内観測史上最大のM9.0の地震が発生し、二万人余りの方々が犠牲となった。あれからもう一年が過ぎた。短く感じる時もある、遠い昔の事のように思う時もある。3月10日(土)に福島県地域医療課からの依頼で、南会津の田島町で住民の方々へ放射線に対するリスクコミュニケーションをさせて頂いた。前日に雪が降り心配したが、高速で須賀川まで行きそこから田島に向かった。医大病院から持参した線量計で所々環境放射線量を測定しながらの移動。長沼で0.4~0.5 $\mu$ Sv/h、天栄村に入ると0.3 $\mu$ Sv/h。雪のせいで低めに出るのかも知れないが、山の側にくると線量が上昇する。峠を過ぎて田島町の御蔵入交流館に着いたが、環境放射線量は0.06 $\mu$ Sv/h程度。これだけ線量が低ければ講演を聞きに来ないだろうと思ったが30人程の住民の方が雪の中来て下さった。講演後質問を受け付けると「子供を外で遊ばせて良いのか?」「身体に影響は無いのか?」「病院で何回もCTを撮ったがそんなに撮影しても良いのか?」等々...100mSv以下では影響は無いので、ストレスをためる事の方が身体に悪いし、内部被ばくに関しては食品等を測定してみないと絶対的なことは言えないが、福島市内より、環境的には非常に良いところで、健康には問題ないレベルであると御説明した。正しい知識で正しく怖がって欲しいのだが、公衆の被ばく限度1mSv/年の数値がここでも独り歩きしている。あくまで防護の立場から厳しく制限しているのであって、この値を超えると身体的影響が出るものではない事をお話したが、不必要なものは少しでさえイヤだという強い思いが身にしみた。「偉い先生が色々話すが危険だという先生もいれば安全だという先生もいて誰の話を信じたら良いか判らない!」と言われ、少人数の所でじっくりと、何に心配しておられるのかを聞きとり、住民の皆さんと同じ目線に立ちながら放射線の話をするのが良いのだろうと感じ、私自身がもの凄く勉強させられた一日である。

11日(日)の東日本大震災1年目は福島県立医科大学で緊急被ばく医療基礎講座が開催された。除染コースと搬送コースに分かれており、消防署の職員が多く出席されている割には、除染コースの放射線技師が少ない。昨年の震災時290余名の福島県放射線技師がスクリーニングに参加してくれたが、この機会だから勉強したいと思う会員が多数いるのだろうと思っていたので予想外であった。14時46分には皆さん一時中断し、犠牲となられたの方々に対して1分間の黙祷が行われた。災害は突然やってくるものだし、幾度となくシミュレーションを繰り返しても時間が経てば忘れてしまう。何回も何回も繰り返していくしかない。医大病院の除染棟では以前より回数は減ったものの、シミュレーションが行われるが、その度に注意すべき点を指摘される。あってはならない事ではあるが、昨年の原発事故と同じような事が絶対に無いとは言い切れない状態の今、もしもの時貴方はどのように対処しますか?自分の家族や子供達を守るために一年に一回の訓練に参加してみてもどうでしょうか?そこで医師や看護師達とコミュニケーションを取りながら、自分のやるべき事が見えてきます。自分の仕事にももっと誇りを持てると思いますが、そのためにも貴方の貴重な一日を提供して下さいませんか?

### 「(社)福島県放射線技師会 臨時総会」 開催される

去る1月14日(土)に(社)福島県放射線技師会臨時総会が、福島テルサで開催された。

かねてより申請中の本会公益法人移行認定に向けて取り組んでいた最中、昨年7月に鈴木憲二会長が急逝され、申請書類の「公益法人定款の案」の代表理事部分について修正するよう福島県の指導を受け、臨時総会を開催する運びとなった。

### 「(社)福島県放射線技師会 臨時総会議事(抄)」

1、開催日時：平成24年1月14日(土) 13時00分

1、開催場所：福島市北町福島テルサ3階  
「あぶくまの間」

1、会員総数：644名

1、出席者数：486名 (うち委任状出席者458名)

総会運営ならびに資格審査委員田代和広(白河厚生病院)より、会員総数644名中486名の出席があり、定款24条規程の過半数を充たすので会議が成立すること、更に定款36条規程の定款改正のための会議の成立要件である会員総数の4分の3以上(483名以上)同意を持って成立する要件を満たしていると報告された後、議長選出に入った。

議長に会員佐藤孝則、会員穴澤明宏が選出され、議長は議事録署名人に理事代表齋藤康雄、会員内沼良人、会員阿部智を指名する旨提案があり諮ったところ、満場一致により承認された。

次いで下記議案について審議に入った。

#### 1、議 題

第1号議案 公益社団法人福島県放射線技師会定款(案)改定について

監事片倉俊彦から、福島県にさきに提出していた定款(案)について、部分的な改定の指導があった旨、詳細な経過報告がされた後、指摘部分の改定が提案された。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致異議なく可決承認された。

#### 第2号議案 その他

副会長遊佐烈より、第1号議案により成立した定款(案)及び諸規定について、福島県より更なる変更等の指摘があった場合、修正内容が字句の訂正や軽微な修正の場合で、提案した定款ならびに諸規定案の趣旨と大きく異なる場合には、理事会の審議で変更を認めるとしたい、と提案され、議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致異議なく可決承認された。

以上で議案全部の審議を終了したので議長は午後1時40分閉会を宣言し解散した。

### 「第19回福島県画像技術研究会」開 催される



平成24年1月14日(土)福島テルサにおいて「第19回福島県画像技術研究会講演会」が開催された。はじめに独立行政法人国立病院機構水戸医

療センター放射線科の田中善啓先生より「外傷診療における撮影技術」という題目で、今回は特に外傷診療にスポットをあて、技師側より初療室での撮影技術についてご講演頂いた。撮影室の環境づくり、撮影するにあたって技師側で注意すべき点、また実際の現場での撮影技術のコツなどを丁寧に教えて頂いた。次に「外傷患者診療指針(JATEC)とトリアージの概念」と題し、東北大学病院高度救命救急センターの古川 宗先生より、JATECというガイドラインについて外傷の急患が来院した場合、医師はどのように診療を行っているかをご講演頂いた。ABCDEアプローチとPrimary Survey、その後のSecondary Surveyについて分かり易く説明して頂いた。外傷患者の診療の中で画像診断の役割は重要であり、放射線技師も救急のスタッフと共通の認識をもって業務にあたるべきだと思った。その後、パネルディスカッションとして「各施設での救急撮影の現状について」と題し、救命センターを有する4施設の演者に個別の題目で発表が行われた。市立総合磐城共立病院の佐藤龍一さんより「震災前後での変化について」、会津中央病院の橋本浩行さんより「脳血管障害の対応」、財団法人太田西ノ内病院の出村涉さんより「心疾患の対応」、福島県立医科大学附属病院の矢部重徳さんより「救急外来における造影CT」についてそれぞれの施設の現状と撮影の実際を話して頂き、その後田中先生、古川先生を交えてディスカッションを行った。CTでの単純撮影、ダイナミック撮影の有無、またこれからの一般撮影の役割など活発な質疑応答が行われ盛況であった。(県北 田代)

## 会 告

平成24年3月31日

下記により、平成24年度社団法人福島県放射線技師会総会を開催いたします。

#### 記

第65回(平成24年度)社団法人福島県放射線技師会総会

日 時 平成24年5月19日(土) 13時30分より

会 場 「ユラックス熱海」郡山市熱海町熱海2-148-2

#### プログラム

13:30 受付	15:10 開場 一般公開講演
14:00 開会	15:30 特別開演
14:10 学術委員会分科会及 び部会活動報告会	16:45 総会



## 「福島県放射線技師会学術講演会」 開催される

去る2月18日(土)ホテルサンルートプラザ福島において、福島県放射線技師会学術講演会が開催された。

毎年この時期行われる恒例の本講演会はいろいろなテーマで開催されている。

今回は基調講演として「WBC (ホールボディーカウンター) 測定における評価について」と題して、キャンベラジャパン 技術部部长 小笠原 強二先生、特別講演は「低被ばくCT update」と題して、天草地域医療センター 放射線科部長 中浦 猛先生に講演をしていただいた。基調講演の「WBC (ホールボディーカウンター) 測定における評価について」については実際に同装置で測定している施設もあることから、会場からの質問も多数寄せられ活発な質疑応答が行われ、これから導入を考えている施設には十分参考になる有意義な講演会となった。(今野)

## 「第11回福島県MRI技術研究会」開 催される

平成24年2月25日(土)福島テルサにおいて「第11回福島県MRI技術研究会」が開催された。今回の研究会は「あらためて学ぶMRIその」というテーマで行われ、シンポジウムやメーカー各社からの情報提供も企画された盛り沢山の内容であった。はじめに撮影技術(骨格論)として「ハードウェア・再構成技術」と、「パルスシーケンス」についての講演が行われた。ハードウェアについては、「静磁場特性とハードウェア」「パラレルイメージングの方法論と特徴」という2つのテーマに大別され、装置を構成する上で重要となる各システムの原理や問題点を基礎から解説していただいた。また、パルスシーケンスについては、「SE系シーケンスの特徴と応用」「GRE系シーケンスの特徴と応用」、そして「MRAの方法論と応用」という3つのテーマで講演がなされ、それぞれのシーケンスが得意とすること、または撮影する上で留意すべき事項などを分かり易く解説していただいた。次に情報提供として「わが社のMRI装置～今後の展望～」と題し、各社のMRIにおけるアピールポイントや、特に力を入れて開発を進めているシステムを紹介するセッションが設けられた。従来よりも広いボアが主流になりつつある現状からも分かるように各社とも「患者さんにやさしいMRI」の開発のために尽力する姿が見受けられ、今後のさらなる技術の進歩に改めて期待を抱く機会となった。最後に「メーカー側からみたMRI装置の安全管理」と題されたシンポジウムでは、福島県をはじめとする東北地方を襲った大震災の経験から、大きな揺れや浸水に見舞われた際に装置がどのような挙動をするか、その状況におかれた際に技師として何を優先して行動すべきか、

といった緊急時における安全管理が主な議題として挙げられ、活発な議論がなされた。今回の研究会は、大雪という悪天候にもかかわらず多くの参加者があり、参加された皆さんの熱心な技術向上の姿勢がうかがえた。

(県北 長澤)

## 寄稿

### 「平成22年度学術奨励賞」を受賞して

財団法人星総合病院 遠藤 潤

この度、平成22年度学術奨励賞を受賞する事が出来ました。

今回、奨励賞受賞する事が出来たのも、担当医師を始め、諸先輩・同僚などの協力や支えて下さったお陰と感謝しております。

今回のシャントCTA画像向上への取り組みは、以前勤務していた施設で行っており、GE社製2列のMDCTを用い検査していました。その時は、描出画像はシャント吻合部及び吻合近位部の狭窄描出を目的とし、中枢側の動静脈血管の描出は上手くいく時もあれば、いかない時もありました。また、透析シャント血管について理解を深めるため医師に相談し、吻合術式やシャント狭窄、その他の合併症についてたくさんの事を教えて頂いた事が基礎知識となりました。

現在の施設では、シャント狭窄疑いはカテ室にてシャント造影を行い必要であればPTAという流れです。しかし、循環器医師からシャント血管を3Dでみたいとの要望があり、今回の目的となりました。

検査するに当たり、以前学んだこと、得てきた結果を最大限に生かしプロトコル作成しようと思いましたが、短時間撮影・造影剤使用量の低減などを優先するが上に、目的であったシャント上肢血管全体の把握が困難となりました。当院でのシャントCTA検査は年間数件しかないので検討するも評価することができませんでした。

しかし循環器医師からの強い要望に応えたい、2列MDCTで出来て、64列MDCTで出来ないという事は言えないという思いからCT担当技師と検査内容、CT装置設定内容の見直し・検討を行いました。

また、透析を行っている患者は大血管の動脈硬化が強く、時に腎動脈の狭窄を伴う事があります。その為、ルーチン画像として透析シャント上肢血管全体の把握はもろんの事、大血管や腎動脈血管の画像作成を行い診断に寄与しました。

最後に、今後もより良い医療を実現する為に日々の研究・研鑽に努めたいと思います。

(財)太田総合病院附属太田西ノ内病院 林 伸也

この度、平成22年度学術奨励賞を受賞させていただきました。演題数39題もある中で、今回放射線技師学術大会に初参加で受賞できたのは、協同研究者である大原亮平氏、出村渉氏の協力とご指導のおかげ

げであり、この場をかりて深く感謝いたします。ならびに選考していただいた実行委員長、座長のみなさんにも感謝しています。

私が発表した内容は、透視室での被曝低減を目指したものでした。今年は東北地区で大震災に続く福島原子力発電所の事故があり放射線に対する不安が広がる中で、業務中も撮影後患者さんに「被曝大丈夫ですか?」「この検査はどのくらい被曝するの?」などと質問が増え続け、世間にも放射線に関心が広まってきています。そんな中で今回の演題は、少しでも検査における被曝を低減する方法であるため、患者さんの身体的、精神的負担を軽減するためにも有効なものと考えられます。

これを機に、今後も日頃の業務で疑問に思ったことを追求し、発見や応用力を養いつつ、今後の自己の成長と、放射線医療の発展に貢献していきたいです。



タを集約して、利用者は、インターネット経由で必要な機能のサービスを受けることが出来るということでありました。従って、外部のサーバー上での作業となるため、OSに依存することなくアプリケーションの活用ができ、ネットにつながる環境があれば、どこにいても利用できる利点があるそうです。

今後、目的や利用方法を検討して広まっていく可能性があるということでした。研究会終了後は、1階「タイム」にて新年会が開催され会員の親睦が深められました。(遠山)

### 浜 通 支 部

「いわき地区画像研究会新年会」開催される

1月20日(金)午後6時半よりいわき市平「松本楼」において、平成23年度いわき地区画像研究会新年会が開催された。冒頭、世話人代表呉羽総合病院鈴木と浜通り支部長である総合磐城共立病院今野氏より挨拶があった。両氏共に東日本大震災により多くの尊い命が奪われ新年会という気分ではないが、3月の本震、4月の余震でどうなるかとの不安を打ち消し、当研究会も8月から活動を再開、9月、10月と続けて行うことができ、このような状況の中では良かったのではないかと挨拶があった。当日の参加者は20数名と少数ではあったが、半ば過ぎより個人の自己紹介があり、自分の担当しているモダリティの話など普段は聞けない詳細な仕事の内容がわかり有意義な会であった。(鈴木)

## 支 部 だ よ り

### 会 津 支 部

「第77回会津画像研究会」開催される

1月27日(金)午後6時15分より山鹿クリニック2階会議室において、「第77回会津画像研究会」が開催されました。初めに、パイエル薬品株式会社より、「EOB・プリモビストを使用した最近の撮像法」について症例を交えて報告がありました。続いて、テラリコン・インコーポレイテッドの生方正紀氏より「ボリューム画像診断にお

けるクラウドコンピューティングのメリット」について講演がありました。「クラウドコンピューティング」とは、外部のサーバーにデー



### 県 北 支 部

## 訃 報

会員杉田昭二さん(福島市)が、去る2月20日逝去されました(行年84歳)。24日告別式が行われ、県技師会並びに県北支部から香典・花環を捧げご冥福を祈りました。



## 編 集 後 記

東日本大震災から早一年が経過した。福島第一原発事故の被害は、国際評価基準で最悪の「レベル7」。あのチェルノブイリ原発事故と同程度であったのだと思うと改めて事態の深刻さに胸が痛む。福島は未だに子供の健康不安や除染に伴う様々な問題も山積のままであるが、“復興”へ向かって自分に今、何が出来るかを常に考えながら少しずつ前に進んでいければと思う。(池田)